

日時：令和4年1月31日(月)～2月4日(金)
(資料書面審議にて代替開催)

審議者	評議員	藤村篤	盛岡西消防署雫石分署長
		柿木典子	雫石町社会福祉協議会事務局長
		藤澤崇	雫石中学校長
		櫻田七海	NPO法人まちサポ雫石理事長
		小林周平	雫石商工会青年部長

令和3年度 第2回学校評議員会 評議員の意見及び提言

(1) 雫石高校の教育活動について

- ・地域と連携した取組が様々あり、また、積極的に地域と連携する体制があることが素晴らしいと思う。
- ・教育に対する満足度が高く、雫石高校に入学した生徒が期待以上の学校生活を送ることができている。
- ・様々なレベルの生徒がいる中で、個に応じた教育活動が展開されていることがうかがえる。
- ・雫石中学校卒業生に対する温かい導きに感謝している。
- ・目標に向かって積極的な活動が行われ、達成度も高いと思われる。
- ・グループワークや教え合い等を積極的に取り入れ、コミュニケーションの充実に努めてきたことに対し大いに評価したい。自分の言葉で相手に伝えることは社会人になるにあたり大切なことと思う。
- ・少人数編成で教員の目が届き、基礎学力の定着と向上に努めていることは資料からも推察され、高評価に値するものと思う。

(2) 学校評価の結果について

- ・⑫「地域活動には積極的に取り組んでいる」が、⑩「学校は地域と連携している」に対して低いのは、学校行事として地域連携を進めているが生徒個人個人の地域活動に対する情報が少ないことがあるかもしれない。
- ・⑫に対してもっと活動する事ができれば、探究の実践活動としてもより活発になり、また生徒自らが地域と連携するきっかけになると思う。
- ・自己存在感や自己承認の低い子どもたちが入学しているので、⑦自己肯定が低めに出ることはある意味必然。しかし、4分の3以上が肯定的にとらえていることも事実であり、変わらぬ指導をお願いしたい。
- ・保護者の肯定的な回答状況が、雫高の教育活動が認められている証と思う。
- ・⑫地域活動の低い回答は、生徒の意識レベルの差や、コロナ禍での活動制限を考えるとやむを得ないのでは。
- ・高い評価であり、教育活動は適切と思われる。
- ・地域との協働に力を入れている高校だと思う。
- ・町内でのインターンシップ、虹色コンパス、雪んこ見守り隊への参加など地域活動に積極的に参加していることも大きく評価すべきことと思う。
- ・ICT教育の取組は、教職員の方々には大変ご苦勞のことと思うが、近年の社会情勢の中、ICTの活用は不可欠なものであり、今後ともご指導をいただきたい。

(3) その他

- ・「穿石」毎月の発行に感謝。毎月見ている。
- ・「公営塾」についてウチの子ども(中1)も参加に興味をもってほしいが、年頃もあるのか、なかなか参加しない。
- ・「公営塾」の取組・運営に心より感謝します。ぜひ次年度も同様な継続開催をお願いしたい。
- ・少人数であるが、生徒と教職員のコミュニケーションが密接であり、指導が充実していると思う。
- ・経済的な理由で進学をあきらめているような生徒がいれば、社会福祉協議会として相談支援します。
- ・地域に根差した活動をしており、地域住民として誇らしく思います。

(4) 今後の雫石高校の教育活動のための提言

- ・いつも様々な地域活動(雪灯りなど)に協力をいただき感謝している。冬季休業にはインターンシップとして寺子屋の手伝いに2名が参加してくれた。小学生が高校生と関わる機会も多くない中、積極的に関わり、参加をいただき感謝している。
- ・アイデアコンテストへの取り組みなども素晴らしかった。
- ・公営塾の取組も、中高連携事業の取組も、成果は数年後に現れるものかと考える。部分的な修正は加えながらも継続的に実施できることを期待しています。ご協力をお願いします。
- ・中高連携については経営計画に具体掲載することにした。
- ・出前授業と高校見学は、もう少し時期が早いと進路検討にも役立つかと思う。
- ・修学旅行延期にも対応して調整いただき感謝します。WinWinの事業に近づけるため、10月末開催が的確。
- ・地域活動にはもっと積極的に取り組んでもよいのではないかと思う。
- ・雫石高校が長く存続し、地域の発展に貢献できるよう希望します。
- ・キャリアコンサルタント等の専門家によるキャリア教育を積極的に行ってはどうでしょうか。